

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 29 年 4 月 13 日 (2017.4.13)

【公表番号】特表 2016-512693 (P2016-512693A)

【公表日】平成 28 年 5 月 9 日 (2016.5.9)

【年通号数】公開・登録公報 2016-027

【出願番号】特願 2016-503010 (P2016-503010)

【国際特許分類】

C 1 2 N 1/04 (2006.01)

C 1 2 N 1/00 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 1/04

C 1 2 N 1/00 F

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 3 月 10 日 (2017.3.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

トレハロース及びレプチンを含む細胞保存用試薬。

【請求項 2】

更に、少なくとも 1 つのカオトロープ、キレート剤、バッファー、および代謝修飾因子を含む、請求項 1 に記載の細胞保存用試薬。

【請求項 3】

前記キレート剤が、EDTA、EGTA、BAPTA、イミダゾール、イミノジアセテート (IDA)、及びビス (5 - アミジノ - 2 - ベンゾイミダゾリル) メタン (BABI M) からなる群から選択される、請求項 2 に記載の細胞保存用試薬。

【請求項 4】

前記少なくとも一つのカオトロープが、チオシアン酸ナトリウム、 $H_2PO_4^-$ 、 HCO_3^- 、 I^- 、 Cl^- 、 NO_3^- 、 NH_4^+ 、 Cs^+ 、 K^+ 、ゲアニジニウム、ゲアニジニウムのすべての塩、 Br^- 、及び Rb^+ からなる群から選択される、請求項 2 又は 3 に記載の細胞保存用試薬。

【請求項 5】

前記代謝修飾因子が、極性非プロトン性溶媒、DMSO、アセトン、N, N - ジメチルホルムアミド、およびアセトニトリルからなる群から選択される、請求項 2 ~ 4 のいずれか一項に記載の細胞保存用試薬。

【請求項 6】

前記レプチンの最終濃度が、0.001 M ~ 0.5 M である、請求項 2 ~ 5 のいずれか一項に記載の細胞保存用試薬。

【請求項 7】

前記キレート剤の最終濃度が、0.005 M ~ 2 M、0.005 M ~ 0.1 M、又は 0.01 M ~ 2 M である、請求項 2 ~ 6 のいずれか一項に記載の細胞保存用試薬。

【請求項 8】

前記トレハロースの最終濃度が、0.1 M ~ 2 Mである、請求項2 ~ 7のいずれか一項に記載の細胞保存用試薬。

【請求項9】

組織サンプル、及び請求項1 ~ 8のいずれか一項に記載の細胞保存用試薬を含む混合物。

【請求項10】

前記組織サンプルが、癌組織サンプルである、請求項9に記載の混合物。

【請求項11】

前記組織サンプルが、少なくとも72時間、96時間まで、又は120時間まで、前記細胞保存用試薬に接触している、請求項9又は10に記載の混合物。

【請求項12】

組織サンプルの遺伝子発現分析のための試薬を製造するための方法であって、少なくとも1つのカオトロープを提供するステップ、少なくとも1つのコスモトロープを提供するステップ、キレート剤を提供するステップ、バッファーを提供するステップ、アポトーシス基質を提供するステップ、代謝修飾因子を提供するステップ、ならびにカオトロープ、コスモトロープ、キレート剤、バッファー、アポトーシス基質、および代謝修飾因子を混合するステップを含み、ここで、前記少なくとも1つのコスモトロープがトレハロースであり、前記アポトーシス基質がレプチンである、方法。

【請求項13】

前記少なくとも1つのコスモトロープが、
 - トレハロースであり、前記アポトーシス基質がレプチンである、請求項12に記載の方法。

【請求項14】

前記キレート剤が、EDTA、EGTA、BAPTA、イミダゾール、イミノジアセテート(IDA)、及びビス(5-アミノ-2-ベンゾイミダゾリル)メタン(BABIM)からなる群から選択される、請求項12又は13に記載の方法。

【請求項15】

前記キレート剤の最終濃度が、0.005 M ~ 2 M、0.005 M ~ 0.1 M、又は0.01 M ~ 2 Mである、請求項12 ~ 14のいずれか一項に記載の方法。